

## 道路整備の優先順位 評価基準

**Q** 基準を導入して以降、地域間で事業実施の差がある。地域間格差解消について問う。

**A** 基準対象外の事業を含め対応している。

## 職員のサービス残業

**Q** 職員組合のアンケートでサービス残業の増加が指摘されている。これに対する見解と対策を問う。

**A** 職場実態を確認し、必要な時間外勤務については命令を行うことを徹底する。

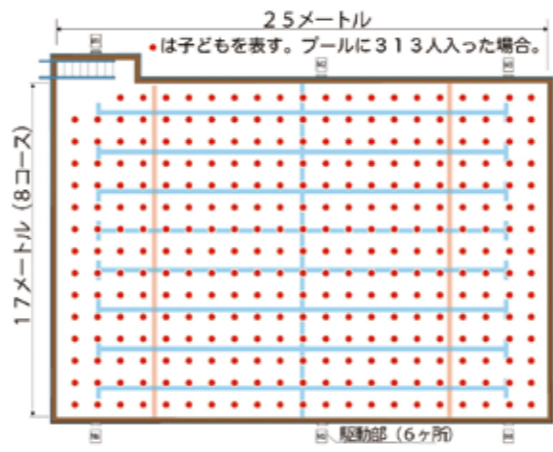
## 嵐南小学校・第一中学校 プール訴訟について

**Q** 3月18日新潟地方裁判所は、プール訴訟について三条市の請求を棄却する判決を出した。三条市は不服とし控訴した。議会には時間的余裕がないとして専決処分で控訴手続きを行い、この6月定例会に専決処分報告として議案が出されているが、判

決の詳細な内容は何一つ知らされていない。内容もわからないまま安易に認めるわけにはいかない。

情報公開で判決文を確認したが、事故の直接原因は平成27年6月18日のプール授業で小学1年生と6年生の313人で波づくり授業を行い床がたわんだことによる。

25メートル×17メートル（8コース）のプールに313人が一度に入ると、1人当りの専有面積は約1.3平方メートル。公共の屋内プールでは3平方メートルが標準と言われている。どうしてこんな過密な授業を行わなければならないのか。現在でもこんな授業を行っているのか。



嵐南小学校・第一中学校プール イメージ図

## デマンド交通の充実

**Q** 高齢者の交通事故が後を絶たない。運転免許返納者など高齢者の交通手段のために自宅送迎などデマンド交通を充実すべきだ。

**A** デマンド交通のさらなる改善に努めたい。自宅送迎は、タクシーとの差別化から現行の停留所間の運行を基本としていきたい。

## 三条市と新加茂市長と 今後の関係について

**Q** 今まで前加茂市長と三条市との関係は必ずしも良好とは言えなかったが、新市長は、前市長が認めなかった県医師会応急診療所への救急搬送の実施も関係部署に対して行った。三条市長を訪問されたりと、良好な関係で推移しているようだが、市長の考えはどうか。

**A** 今の時代、多くの場合において近隣市町村との連携が不可欠になっている。そのことは新加茂市長も強く認識をされており、その点については私としても大いに歓迎しており、同じこの地に住まう者として県央地域の発展に向け協力は惜しまないつもりだ。

## 図書館等複合施設建設 基本計画について

**Q** 先般行われた3常任委員連合協議会で基本計画の説明があったが、市民が長年の要望であった美術関連の展示についての説明がなかったがどうなっているのか。

**A** 現在係争中につき答弁は差し控える。プール授業は一定の教育目標を持って行われたと認識している。

**Q** 一中一体校は、当初から1500人規模のマンモス校で狭いとの指摘があった。今回のプール事故はそれを裏付けたのではないか。

**A** 現在係争中につき答弁は差し控える。

## 家族農業への支援

**Q** 農業法人や集落営農も経営に苦勞している。家族農業を見つめ直す必要があり親元就農への支援が必要だ。

**A** 家族農業や親元就農も担い手として重要と考え、農業用機械導入補助金など支援している。

## 農業用水の施設整備への支援

**Q** 古くなった揚水機場などの水利施設整備に支援が必要だ。

**A** 国営事業で水利施設を整備する場合、ガイドラインに沿って助成を行い、農家負担の軽減を図っている。

## 食品ロス削減の推進

**Q** 国において食品ロス削減推進法が全会一致で可決成立した。今後、地方自治体にも取り組むべき課題が多くある。どのように進めていくのか。

**A** 廃棄物の減量化の観点からも、食品ロスの削減を適切に推進するための施策を展開していくことが肝要と考えている。こういった形で取り組むことが効果的なのか研究していきたい。



老朽化している農業用水の揚水機場

## 三条市における プログラミング教育の 実施について

**Q** プログラミング教育は、具体的にどのような授業を行うのか。

**A** 児童生徒がプログラミングなどを体験しながら論理的思考を身に付けるもの。

**Q** 教職員へのプログラミング教育の研修はどの程度行われているのか。

**A** 昨年、一昨年と1月に専門の講師を招いて実施し、今年度は七月に具体的な研修を行う。



プログラミング教育授業の様子



高齢者のためにデマンド交通の充実を